ある殺戮

そこぬけ。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ある殺戮

【Ｎコード】
Ｎ６４９５Ｃ

【作者名】
そこぬけ。

【あらすじ】
いつもと変わらない一日を過ごせると思っていた。でも、私は殺された。

今日、私は殺された。
理由はわからない、日ごろの行いが悪かったのか、
それとも私の美しさに妬みを持った奴が、やったのかもしれない。
どんな理由であろうと・・・いや、もう忘れよう。
きっと夢だったのだろう、私の存在自体が夢のようなものだったのだろう。

今日も朝焼けの光を体いっぱいに浴びて目覚めた。
毎日が似たようなことの繰り返しだった。
いつものように朝をむかえ、いつものように終わると思っていた。
毎日が平凡だが、どこか平和で・・・でも今日は違った。

真夏の炎天下の日。
奴はいきなり現れて、品定めするかのように私達を見た。
奴は私を見つめると、その手で私の体を締めつけ、引き寄せた。
その力はあまりに強く、私は気を失いかけた。
奴は私を選んだようだ。

不気味な呪文のようなものを唱え、そして私の体を少しずつ引きちぎっていく。
私は叫んだが、無意味だった。
奴は笑いながら私の体を奪っていく。

私の体はもはや原型をとどめていなかった。
体のほとんどを失ってしまった。
もう昔の自分には、美しかった自分には戻れない。
最後に奴は私を道端に捨てた。
こうして私は殺された。

「好き・・・嫌い・・・好き。やった！好きになった！！」
小さな女の子が、満面の笑みを浮かべていた。
女の子は花占いをしていた。
結果に満足した女の子は、花を道端に捨てた。
変わり果てた花・・・私を道端に・・・。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6495c/

ある殺戮

2011年1月4日02時53分発行